



2021年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2020年8月12日

上場会社名 株式会社アルファポリス

上場取引所 東

コード番号 9467 URL <https://www.alphapolis.co.jp/company/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 梶本 雄介

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼管理本部本部長 (氏名) 大久保 明道

TEL 03-6277-0123

四半期報告書提出予定日 2020年8月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の業績(2020年4月1日～2020年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	1,457	23.8	341	14.6	342	15.2	216	15.2
2020年3月期第1四半期	1,177	5.6	297	5.0	297	4.9	187	3.2

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	22.30	
2020年3月期第1四半期	19.36	

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第1四半期	7,665	6,364	83.0
2020年3月期	7,614	6,148	80.7

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 6,364百万円 2020年3月期 6,148百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		0.00	0.00
2021年3月期					
2021年3月期(予想)		0.00		0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,800	20.8	1,700	16.3	1,700	16.3	1,071	21.7	110.56

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期1Q	9,687,400 株	2020年3月期	9,687,400 株
期末自己株式数	2021年3月期1Q	152 株	2020年3月期	152 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期1Q	9,687,248 株	2020年3月期1Q	9,687,280 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第1四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(追加情報)	6
(セグメント情報等)	6
(重要な後発事象)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間(2020年4月1日から2020年6月30日まで)におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い経済活動が大幅に制限され、景気は急速に悪化し、極めて厳しい状況にあります。

当社が属する出版業界におきましては、新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態宣言の発令等により多くの書店が休業を余儀なくされ、紙の出版物の市場は引き続き厳しい状況にあるものの、一方で電子出版の市場は順調な成長を続けております。出版科学研究所によると、2020年上半期(1月から6月まで)の紙と電子出版を合算した推定販売金額は、前年同期比2.6%増となる7,945億円となり、その内訳は、紙の出版物については同2.9%減となる6,183億円、電子出版については同28.4%増の1,762億円となっております。

こうした環境の中、インターネット発の出版の先駆者である当社は、「これまでのやり方や常識に全くとらわれず」、「良いもの面白いもの望まれるものを徹底的に追求していく」というミッションの下、インターネット時代の新しいエンターテインメントを創造することを目的とし、インターネット上で話題となっている小説・漫画等のコンテンツを書籍化する事業に取り組んでまいりました。

当第1四半期累計期間における書籍のジャンル別の概況は以下の通りであります。

① ライトノベル

新型コロナウイルス感染症による書店の休業に対応するため、当第1四半期に刊行する予定であった紙書籍の一部を第2四半期以降の刊行に延期いたしました。そのため、当第1四半期累計期間のライトノベルの刊行点数は前年同期を大きく下回る41点(前年同期比7点減)となりました。各書籍の売れ行きにつきましては、『とあるおっさんのVRMMO活動記』、『転生王子はダラけたい』など、ロングヒットシリーズの続刊が堅調に推移いたしました。また、電子書籍につきましては、引き続き親和性の高い女性向け小説を中心に好調な売れ行きを示し、当ジャンルの売上を牽引いたしました。

結果、当第1四半期累計期間における刊行点数は前年同期から大幅に減少したものの、一方で電子書籍販売が大きく伸長し、当第1四半期累計期間の売上高は前年同期を上回る着地となりました。

② 漫画

当第1四半期累計期間の刊行点数は前年同期を上回る24点(前年同期比6点増)となりました。シリーズ累計560万部を突破した『ゲート』を筆頭に、ライトノベルヒット作をコミカライズした作品の続刊が堅調に推移いたしました。また、当ジャンルとの親和性が極めて高い電子書籍につきましては、新刊配信点数が増加したことに加えて、外出自粛による巣ごもり消費の拡大も影響し、売上は大幅に増加いたしました。

結果、当第1四半期累計期間の売上高は前年同期を大きく上回る着地となりました。

③ 文庫

当第1四半期累計期間の刊行点数は29点(前年同期比6点減)となりました。シリーズ累計112万部を突破した『居酒屋ぼったくり』の文庫版を刊行し、同タイトルが売上を牽引いたしました。また、「ライト文芸」ジャンルから『神さまのレストラン』を刊行する等、引き続きジャンル拡大に向けた取り組みを積極的に実施してまいりました。

しかしながら、刊行延期による刊行点数の減少を主因として、当第1四半期累計期間の売上高は前年同期を下回る結果となりました。

④ その他

当第1四半期累計期間の刊行点数は4点(前年同期比2点減)となりました。「絵本」ジャンルから、第10回絵本・児童書大賞の優秀賞受賞作である『おぼけちゃんだってこわいんです』を刊行し、取り扱いジャンルの更なる強化を図ってまいりました。

しかし、刊行延期により前年同期から刊行点数が減少したことが影響し、当第1四半期累計期間の売上高は前年同期を下回る金額で着地いたしました。

以上の活動の結果、当第1四半期累計期間の売上高は1,457,553千円(前年同期比23.8%増)、営業利益は341,233千円(同14.6%増)、経常利益は342,887千円(同15.2%増)、四半期純利益は216,019千円(同15.2%増)となりました。

(注) シリーズ累計部数：同作品の続編に加え、同作品の漫画及び文庫を含む。また部数は紙書籍販売及び電子書籍販売の合計数。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

当第1四半期会計期間末の流動資産は、前事業年度末と比較して56,291千円増加し、7,357,087千円となりました。これは主に、現金及び預金が増加（前事業年度末比207,472千円増）した一方で、売掛金が減少（同160,373千円減）したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末と比較して5,533千円減少し、308,605千円となりました。これは主に、無形固定資産に含まれるソフトウェアの償却を行ったことにより、無形固定資産が減少（同3,898千円減）したことによるものであります。

② 負債

当第1四半期会計期間末の流動負債は、前事業年度末に比べ159,876千円減少し、1,247,798千円となりました。これは主に、未払法人税等の減少（前事業年度末比134,131千円減）及び返品調整引当金の減少（同39,820千円減）によるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ5,385千円減少し、53,044千円となりました。これは主に、長期借入金の減少（同5,022千円減）によるものであります。

③ 純資産

当第1四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ216,019千円増加し、6,364,850千円となりました。これは全て、四半期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期の業績予想につきましては、2020年5月14日に公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

※本資料における予想につきましては、当社が現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。予想に内在するさまざまな不確定要因や今後の事業運営における内外の状況変化等により、実際の業績と異なる場合がありますので、ご承知置きください。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,546,132	4,753,604
売掛金	2,398,873	2,238,500
製品	187,166	176,997
仕掛品	118,068	139,043
その他	50,554	48,942
流動資産合計	7,300,795	7,357,087
固定資産		
有形固定資産	31,674	30,341
無形固定資産	25,973	22,074
投資その他の資産	256,491	256,189
固定資産合計	314,139	308,605
資産合計	7,614,935	7,665,692
負債の部		
流動負債		
買掛金	48,534	59,972
1年内返済予定の長期借入金	20,088	20,088
未払金	518,463	483,230
未払法人税等	269,973	135,841
賞与引当金	36,105	12,409
返品調整引当金	339,621	299,800
ポイント引当金	26,880	29,306
その他	148,007	207,149
流動負債合計	1,407,674	1,247,798
固定負債		
長期借入金	57,340	52,318
その他	1,089	726
固定負債合計	58,429	53,044
負債合計	1,466,104	1,300,842
純資産の部		
株主資本		
資本金	863,824	863,824
資本剰余金	853,824	853,824
利益剰余金	4,431,412	4,647,431
自己株式	△229	△229
株主資本合計	6,148,830	6,364,850
純資産合計	6,148,830	6,364,850
負債純資産合計	7,614,935	7,665,692

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
売上高	1,177,347	1,457,553
売上原価	308,127	344,400
売上総利益	869,219	1,113,152
返品調整引当金戻入額	399,171	339,621
返品調整引当金繰入額	354,596	299,800
差引売上総利益	913,794	1,152,973
販売費及び一般管理費	615,970	811,740
営業利益	297,823	341,233
営業外収益		
受取利息	0	0
前払式支払手段失効益	—	1,709
営業外収益合計	0	1,709
営業外費用		
支払利息	60	55
営業外費用合計	60	55
経常利益	297,763	342,887
税引前四半期純利益	297,763	342,887
法人税等	110,172	126,868
四半期純利益	187,591	216,019

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

前事業年度の有価証券報告書の(追加情報)「会計上の見積り」に記載した新型コロナウイルス感染症の今後の広がり方や収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

当社は、出版事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。